

基幹システム導入によるデータ活用の構築と システム活用によるスキルアップ

1 概要

部署ごとに分散していた売上等のデータを基幹システムに集約し、フォーマットや定義を標準化することで、データの信頼性と利便性を高める。データを可視化することで現状把握や課題発見を可能とする。
従業員にとって新たな知識やスキルの習得の機会となり、日々の業務を通じてシステム操作に習熟し、効率的な業務遂行能力を向上させる。また個人の生産性を向上させ、より付加価値の高い業務に時間を充てることを可能とする。

2 実施内容と成果

業務効率化と生産性向上を目指し、独自の基幹システムを構築した。各種業務フォーマットを標準化し、定型業務の自動化と重複作業を排除。各部署で分散していたデータ入力の手間が解消され、情報の検索性が向上した。分析データの取込から請求書発行までの流れがスムーズになり、転記ミス等のヒューマンエラーが削減された。データの可視化による現状把握が容易になり、業務処理時間を削減（目標：25%削減）し、より付加価値の高い業務へ時間を充てることが可能となった。

3 人材育成の取組

外部専門家の指導のもと、全社的なDX人材育成に取り組み、従業員が新システムを活用して効率的に業務を遂行できる体制を整えた。従業員がデジタルツールやデータの重要性を理解し、「常に学び続ける」意識が醸成され、業務改善への提案が現場からあがるようになった

